

〔翻 訳〕

『スペクテイター』(28)

——第266号から第275号——

門 田 俊 夫

第266号 1711年1月4日(金曜日)

【スティーラー】

この若者に早いうちに遊女の手練手管を見抜く方法を教え、
いつまでも嫌悪するようにさせたことは、私の大きな誉れだ
と考えます。(テレンティウス)¹⁾

徳高い人々は、人々が放縦から欲望へと陥ってしまう悪徳あるいは邪悪さといったものに同情を寄せるべきではありません。こういった悪行を見聞きしますと、私は往々にして他人の個人的な罪に苛立つ美德の信憑性を疑ってしまいます。男女間の背徳的な交際は、避けがたいものの一つですが、厳格な女性は情け容赦なく切り捨ててしまいます。慎み深い女性が貞節を守れないことを激しく嫌悪できないのは確かなところですが、自分のためには忌み嫌い、他人には同情を寄せて欲しいものと考えます。ウィル・ハニコームは、こういった限度を超えた立腹の仕方をするご婦人方を常軌を逸した有徳の人と呼びます。

私はここでは、貞節という天賦の才能に関して、一般的な不履行のことではなく、広い意味で捉えて、哀れな公娼について考えてみたいと思います。私が先日の夜コヴェントガーデンのあたりを歩いており、ジェイムズ・ストリート²⁾の右手にある広場にさしかかったとき、17歳くらいのすらりとした女性に肘をつかまれたのです。彼女は厚かましくもワインを一杯せがんだのです。何故か彼女と少し話をしたい気にもなりましたが、バンパー・タバーンの使用人³⁾が私のことを知っているとのことでした。ほかの場所ではしばしば私は単なる観察者であって、いかなる場面に遭遇しようとも、私はまったく関係がないと言ってきましたが、ここで彼のことにについて触れると、何か妙なことになってしまうに違いありません。この邪魔立てが入りましたので、私たちは薄明かりの射すアーチのもとに立っていました。そこで、私は相手の顔をまじまじと観察することができたのです。彼女

1) テレンティウス『宦官』930-3

2) 第14号参照。ジェイムズ・ストリートはコヴェントガーデンの北からロング・エーカーに至る。

3) バンパー・タバーンの所有者リチャード・エストコートは、アンソニー・アストンという人物を使用人としていたようである。

の体つきは見事で、首も胸も奇麗でした。要するに、実に美しい女性だったのです。彼女は無理やりみだらな様子を浮かべて私を誘惑するふりをしたのです。私には、その仕草は飢えと寒さのなせる業だと分かりました。彼女の目は疲れ切っており、衣服は薄物の派手で安っぽく、物腰は気障で大人気ないものでした。この奇妙な女性を目にして、私はとても心が痛められました。私は彼女と一緒にいるところを見られたくなく、立ち去ることにしましたが、5シリング銀貨を1枚渡さざるを得ませんでした。この哀れな女性のため息をつき、ひざを曲げ、熱く感謝の意を述べ、私に背を向けました。この女性はいわゆる「新米の娼婦」なのです。私が思いますに、一月もすれば、彼女は非情な人物の手に落ちて恥辱にまみれるのです。あの鬼婆いわゆるやり手婆に牛耳られることになるのです。ところで、この件について突如深刻になり過ぎてはいけませんし、私自身この上なく寛大な人物ですので、フレッチャーの芝居のある場面に目を向けたいと思います。この芝居では、娼婦が登場し、売春の経済が実に見事に語られているのです。ここで私が指摘します一節は、『陽気な中尉』⁴⁾の2幕3場にあります。国王の欲望の周旋人であり、同時に、全廷臣たちの取り持ち役でもあるリュージュが、とても愉快に紹介されます。そして、彼女は次官役のメイドを従えてメモを読み上げ、彼女の前のテーブルに置いてある説明書を手に入れます。現在彼女の監督下にあり、待たせている女性陣は、彼女の帳面にはアルファベット順にその名前が記載されています。そして、つぶやく調子で頭文字Cの項に目を通しながら、まるで独り言ともはっきりと言っているとも分からないような語り口で、つぎのように言います：

この娘の処女膜は私のものです。さてと、
この娘は15歳になっていないとのこと。この娘の肌の色は—
クロエ、クロエ、クロエ、そうだこの娘がいる、
郷紳の娘クロエが。
年恰好は15。肌の色は素敵な小麦色、そう、目は大きくて黒色、
体はきりりと締まり、リュージュは上手く、
心をそそる歌い方ができる。これは考え物だ。
この娘の処女膜は1500シリングにはなろう。
いや、1750シリングかな。いずれにしても、相当な金になるのは間違いない。
この娘の父親は貧しく、いくらか差し引くとしても、
父親に狩猟用の老いぼれ馬を買ってやれるのです。

こういった女性は下心のあるすべての人々の状況やマナーについて巧みに教え込まれています。クロエは1750シリングで買われ、父親は老いぼれ馬に鞍をつけて出かけます。クロエの隣の商人の妻は直ぐにはお金になりませんが、彼女の貪欲な心はお皿のプレゼントとちょっとした野心に駆られます。彼女は自分に夢中になるのは上流階級の男性なのだと

4) フレッチャーの芝居『陽気な中尉』は1709年4月11日にリュージュをバック氏が演じて以来上演されていなかったが、1712年2月11日と12日に、ドゥルーリー・レイン劇場で再演された。

考えています。商売のために娘を吟味することとかささいなことで娘の値打ちをけなすやり方は、この場の他の事情とともに、まねが出来ないほど素晴らしいものであり、そこには喜劇の真髓が伺えます。もっとも、作者フレッチャーがリュースピのさもしさをもっと忌まわしいものにする出来事を付け加えておいてくれる一層よかったのですが。

売春婦の話にやり手婆のことについて触れても、私が意図する思索から脱線することにはならないと考えます。というのは、売春婦のほとんどは、何の疑念も抱かず、誘惑もなく、どこへ連れて行かれるかといった警告もなく、やり手婆の手に委ねられるといった同情を喚起させるものだからです。先週、私は田舎から荷馬車で届くことになっている糧食の有無を確かめるためにシティーの宿に出かけていきました。宿の客室係が荷物を調べに行っている間、別室で待っていたところ、教理問答を繰り返している年配者と若い人の声が聞こえて来ました。マナー違反にはならないと思って、どんな人たちが問答しているのか隙間から覗いてみました。するとなんとしたことか、町で名うての女将が、私の糧食を運んで来た荷馬車で到着したばかりのとても奇麗な田舎の娘さんを吟味しているところだったのです。女将が言っているのは、きちんとした教育を受けており、この町にたむろしている召使や遊び人との交際を控えることができるかということでした。また、行儀作法を身に付けており、郷紳とか紳士あるいは自分より目上の人を相手にしたとき、謙虚に挨拶ができるかということでした。いかにも世間知らずの娘は、「ええ、分かりました、そのように努めます」と返事をするのでした。その後、女将は田舎者の兄からその娘を預かり、自分のお手伝いとして雇い入れたのです。私は彼らが馬車に乗って出て行くまでそこに残っていました。大きなチーズを手にはしている兄は、「きちんとするのだよ」と妹に言って聞かせました。可哀相なこの娘の運命は、この女将の手にかかることになったのです。明らかに、彼女は長らく欲望の餌食になった後で、飽くなき貪欲へと引き渡されるに違いありません。こういった時代遅れの婦人やもはや罪を犯すことが出来なくなった罪の指揮官の勤勉と慈善行為に対する皮肉交じりの賞賛が、『率直な男』⁵⁾に、他に類を見ない魅力を付与しており、そのお陰でこの芝居はこの悪徳を嘲笑する傑作となっているのです。売春窟のことをよりよく理解するために、そして、今後このテーマを取り上げるときのために、わが友ウィルと共に敢えて美人と色事の巣窟に入り込まなくてはなりません。金持ちの住まいにおける甘やかされた悪徳から売春宿の巣窟へと追いやられた生活に困窮した邪悪へと目を向けなくてはなりません。

第267号 1711年1月5日(土曜日)

【アディソン】

ローマ、ギリシアの詩人たちよ、

5) ウィッチャリーの芝居『率直な男』は、皮肉を込めて「わがB婦人に……」に捧げられた。マダム・ベネットはチャールズⅡ世時代の名うての売春宿の女将。彼女の処世訓のひとつが『タトラー』誌第84号に引用された。

席を明け渡してくれ！（プロペルティウス）¹⁾

一般論というものは、とりわけ、それが主として言葉だけに振り向けられる場合には、これほど退屈なものはありません。そこで、手を付けて数年経過しているミルトンの『失樂園』は果たして英雄詩と言えるか否かという議論を展開したいと思います。英雄詩と見なさない人々は、どちらかといえば、神聖詩と言います。最も崇高な詩の持つ美がすべて備わっていれば、そう呼んでも差し支えないでしょう。英雄詩ではないと主張する人々に関しては、アダムはアイネイアスではなく、イヴはヘレネではないと言うように、『失樂園』の価値を減損させることはありません。

それゆえ、私は叙事詩の規則に従って『失樂園』の検討を進め、この種の著述に不可欠の美という点において、この作品が『イーリアス』や『アイネーイス』の基準に達していないかどうかを確かめたいと考えます。叙事詩において第一に考慮すべき点は、多かれ少なかれ完全であったり不完全であったりするものですが、語られる行為と寓話との関係です²⁾。この行為は三つの適性を備えてはなりません。第一に、行為は単一の行為でなくてはなりません³⁾。第二に、完結した行為でなくてはなりません。そして第三に、卓越した行為でなくてはなりません。『イーリアス』、『アイネーイス』および『失樂園』の行為をこういった三点から考えてみますと、ホラティウスが述べていますように、ホメロスは行為の統一性を維持するために、急いで事物のただ中に入っていきます⁴⁾。もしホメロスがヘレネ掠奪あるいはトロイ包囲のときにレダの卵に近づいたりしていたら、つまり、ずっと後から初めていたとしたら、この詩の物語はいくつかの行為の連続となっていたに違いありません。そこで、ホメロスは冒頭に王子たちの不和を持って来て、その後いくつかの箇所に関わる事情説明を巧みに織り込みます。同様に、アイネイアスが初めて姿を見せるのはイタリアが見えるエトルリアの海です。その理由は、彼のラティウムへの定住を祝福する意図があったからです。トロイ包囲およびその後の航海の途上で彼の身の上に降りかかったことを読者が知る必要があったので、ウェルギリウスは『アイネーイス』の第二、第三巻で、アイネイアスに挿話の形でそれを語らせます。行為の統一性を維持するために、第二、第三巻の内容は詩の配列になっていますが、物語の筋道としては第一巻の内容の前に来ます。ミルトンは、以上二名の偉大な詩人にならって、『失樂園』の冒頭に、人間の墮落を企てる黄泉の国の会議を持って来ます。人間の墮落こそ、ミルトンが称えようとしてしている行為なのです。卓越した行為に関しては、ミルトンは天使たちの闘い、この世の創造を（この創造は時間的には先行するのですが、私に言わせると、

1) プロペルティウス（48?-15? B.C.）『哀歌』2.34.65

2) 当時のイギリスの批評における「寓話」と「行為」の関係については、H.T. スウェーデンバーク・ジュニアの『イングランドにおける叙事詩の理論、1650-1800』（カリフォルニア大学出版局、1944）参照。アディソンはここでは、寓話をル・ボッシュの定義した意味で考えているようだ。

3) アリストテレス『詩学』23.1

4) アリストテレス『詩学』146-52

もしミルトンが生起した順に語っていたら、主要な行為の統一性は完全に破壊されていたに違いありませんが⁵⁾、第五、第六、第七巻でこの崇高な詩に挿話の形で入れているのです。

アリストテレス自身、寓話の統一性に関してはホメロスには自慢すべきところが何一つないことを認めています。もっとも、偉大な批評家であり同時に哲学者であったアリストテレスは、この不完全性のある程度叙事詩そのものの持つ特質のせいにして、ホメロスの弁護に努めています⁶⁾。この点では『アイネーイス』もまた腐心しており、行為の部分というよりはむしろ余計なものと思なされうる挿話が盛り込まれていると考える人たちもいます。それに比べて今週上に載せています『失樂園』には、挿話はすべて主題から自然に生じるものであり、しかもそこには驚くべき出来事がふんだんに盛り込まれているのです。これらは出来栄は多様ですが、統一の取れたものであり、この上なく多様で、同時に、この上なく簡素な喜びを提供してくれます。

また、ウェルギリウスはローマ帝国の起源を賛美する意図を備えた詩『アイネーイス』の中で、強大なライバルであるカルタゴ共和国の誕生⁶⁾について述べていることに気づかなくなてなりません。ミルトンも同様に、人間の墮落についての詩『失樂園』の中で、見せ掛けの敵である天使たちの墮落について語っているのです。こういった挿話には多くの美がありますが、卓越した行為と対応しており、多くの挿話にありがちな統一性の破壊にはつながらず、主要な主題と密接な関係を維持しているのです。要するに、『失樂園』には、批評家たちが、二つの異なった筋書きがそれぞれを補完し合っていると思える『スペインの修道士』またの名を『二つの発見』で賞賛するのと同種の美が備わっているのです。

叙事詩の行為で必要な第二の特質は、それが完結した行為でなくてはならないことです。全体的に完全な場合に、完結した行為と言えます。アリストテレスが言うように、行為は初めと中間と終わり⁷⁾から成り立つのです。ひとつの行為の前にも後ろにもその行為と無関係の行為を混入させてはなりません。一方で、初めから完成に至る正当かつ規則的な進展の中でいかなる行程も省略してはなりません。そこで、アキレスの怒りは、その始まりと持続と結果を目にすることになります。アイネイアスのイタリアへの定住は、その途上における海陸両方からの妨害を受けながら達成されたのです。ミルトンにおける行為は、この点では（私が思うに）ホメロスおよびウェルギリウス両者の行為に勝っています。ミルトンの場合、地獄で企てられ、地上で実行され、天国で罰せられるのです。部分部分はとても明確に語られ、それぞれがとても自然な流れとなっています。

叙事詩の行為で必要な第三の特質は、その卓越性です。アキレスの怒りは非常に大きなものですから、ギリシアの王たちを巻き込み、アジアの英雄たちを滅ぼし、神々に内輪もめを起こさせました。アイネイアスのイタリアへの定住は、カエサル家を生み出し、ローマ帝国を生んだのでした。ミルトンの主題は、ホメロスやウェルギリウスの主題よりもさ

5) アリストテレス『詩学』23.1

6) ル・ボッシュ、第2巻第11章

7) アリストテレス『詩学』23.1

らに卓越したものでした。単一の人物とか国家の運命ではなく、全人類の運命を決するのです。地獄の力が総力を挙げて人類の破滅を目指すわけです。地獄の力は部分的には目的を達成しました。そして、もし全能の神が乗り出さなかったら目的を成就していたに違いありません。主たる行為者は、完全無欠な男性と美の極致の女性です。彼らの敵は墮天使たちです。彼らの味方は救世主であり、彼らの守護者は全能の神です。要するに、自然界の境界内であれ境界外であれ、全存在の輪の中で卓越しているすべてのものが、この賞賛すべき詩の中ではそれぞれにふさわしい役割が割り当てられているのです。

詩の場合には、建築の場合と同様に、全体だけでなく主要な構成員やそのあらゆる部分が卓越したものでなくてはなりません。私はおこがましくも『アイネーイス』や『イーリアス』の競技の巻⁸⁾がこれに当たらないと言う積もりもなく、ウェルギリウスの独楽⁹⁾の比喩や『イーリアス』の同種の比喩を非難に値すると言う積もりもありません。だが、あの素晴らしい偉業からの逸脱がなければ、それらには『失樂園』に伺える明確で疑いの余地のない壮大さが備わり、実際に異教の組織の中で打ち立てられたはるかに卓越した作品となっていたと言えるかもしれない、と私は考えます。

ところで、アリストテレスが行為の卓越さによって言いたかったことは、それが本来的に卓越していなくてはならないということだけでなく、同時に、その持続性において、言い換えれば、正当に卓越と呼べるだけでなく、時間的にしかるべき長さを備えていなくてはならないということなのです。アリストテレスは、この種の大きさを測る尺度として、つぎの比喩を用いて説明しています。ダニほどの大きさの動物は、視野では確かなものとして捉えることができません。なぜなら、一瞬は捉えますが、細部に渡っては捉えることはできず、全体がぼやけてしまうからです。一方、極端に大きな動物の場合も、視野はその一部に行ってしまう、全体を捉えることはできないでしょう¹⁰⁾。こういった動物と視野との関係は、極端に短い行為とか極端に長い行為と記憶の関係と同じことなのです。極端に短い行為は、いわば、記憶が薄れ消えてしまいますし、極端に長い行為の場合は、記憶に留めておくのが困難です。ホメロスやウェルギリウスは、この点に関して、とても重要なわざを見せています。『イーリアス』や『アイネーイス』の行為は、それ自体非常に短いものでしたが、挿話¹¹⁾や神々のからくりやその他詩的な装飾を挿入することによって、非常に見事に広がりを持った多様なものとなっていますので、記憶に法外な要求をしないですむほどの心地よい物語となっています¹²⁾。ミルトンの行為は、さまざまな出来事がふ

8) 『アイネーイス』5, 『イーリアス』23

9) 『アイネーイス』7.378-84

10) アリストテレス『詩学』7.4

11) ダシエールは、『詩学』の注釈で、「叙事詩は語りがないと存立しない。語りが枠組みを構成し、悲劇との違いを作るからだ。だが、語りは厳密に言えば模倣ではなく、せいぜい不完全な模倣なので、叙事詩は真の模倣でなくてはならない。ウェルギリウスは枠組みを維持するために必要なだけの語りを用いている。そして、何らかのことを語るときには、彼はその人物が実際の行為者に見えるようにしている。これは、もっともなことであるが、アリストテレスが賞賛に値すると考えた点である。ウェルギリウスはホメロスの才を熟知しており、見事にそれを利用したのだ」と記している。

んだんに盛り込まれていますので、これを読む時には、私は最良の物語を読む時の大きな喜びに包まれます。おそらく、『イーリアス』や『アイネーイス』が依拠した伝承には、聖書で語られている人間の墮落の物語よりもっと多くの出来事が存在していたものと考えられます。また、ホメロスやウェルギリウスにとっては、自国の宗教を侵犯する危険性がなかったので、真実に虚構を加味しやすかったのです。だが、ミルトンに関しては、詩を構築する出来事がごくわずかであっただけでなく、彼自身の創作で付け加えたあらゆることに細心の注意を払って進めざるを得ませんでした。事実、彼はあらゆる抑制を受けていたにもかかわらず、物語に非常に多くの驚くべき出来事を盛り込みました。こういった出来事は聖書で語られるものと密接に類似していますので、非常に繊細な人をも喜ばすことができますし、この上なく誠実な人を怒らせることもありません。

現代の批評家たちは、『イーリアス』と『アイネーイス』から、その行為が占めている時の経過を推測しました¹³⁾。だが、ミルトンの物語の大部分は一日で済む領域で行われますので、こういった推測は実際には啓発的というよりも好奇心を駆られるものなのですが、読者にはこの楽しみは与えられません。古今を問わず、叙事詩の行為は歳月、日々、時間を限定すべきだとのルールを定めた批評家は誰もいません。この件に関しましては日を改めて論じることになります。

第268号 1712年1月7日(月曜日)

【スティール】

彼は年齢をからかいの対象にすることには
我慢ができない。(ホラティウス)¹⁾

最近必要以上に自分が分別があると思っているわけではありませんが、目下その誘惑をどうしても抑えることができません。つまり、時には寄稿者の皆さんが気ぜわしく送ってくださる飾り気のない率直な手紙を世間に公表すべきだと考える次第なのです。読者は私自身が告発者でもなく審判者でもないことを分かっていたきたいのです。私が犯人を訴えるまでもなく、告発には正当性があるのです。

拝啓

貴殿は観察者総督ですので、つぎの事例を貴殿にお伝えします。すなわち、小生は剣を帯びていませんが、しばしば劇場に行き気晴らしをします。そこで、一組の連中が浮か

12) アリストテレス『詩学』17.3-5

13) ドライデンは、「諷刺論」の中で、『イーリアス』の行為は48日と述べており、「詩と絵画の比較」の中でも、「実際に、ホメロスは『イーリアス』では48日だ」と記している。だが、ボッシュは、ウェルギリウスの行為は1年なのかそれともそれ以上なのか決めかねている。

1) ホラティウス『諷刺』1.3.29-30

れ騒いで率直な人々の鼻をつまむ光景を頻繁に目にします。先日の夜のこと、小生の友人がウィルク氏²⁾の見事な退場に拍手喝采を送っているとき、友人の拍手喝采を耳にしたこの鼻つまみ屋の一人が友人の鼻をひねったのです。小生は平土間席にいましたが、(とても込み合っていました)ある紳士が体ごと小生にもたれかかってきましたので、彼に向かって非常に懇懇に手をのけて欲しいと頼みました。すると、その紳士は小生の鼻をつねるのです。小生は騒ぎを引き起こしたくありませんでしたので、このような公の場で腹を立てませんでした。だが、その後考えて見ますと、これは恥ずべきことであり陰険なことであって、鼻つまみ屋は非常に不愉快であり、鼻をつままれた人物を非常に馬鹿にした行為なのです。小生としましては、貴殿の力でもって、この行為を矯正して頂きたいものと心から願う次第です。

敬具

貴殿を崇拜するのんき者のジェイムズより³⁾

拝啓

愛と結婚に関する貴殿の12月29日の講話はともて有益なものですので、どうしてもこの件に関する私の考えを付け加えたくまりました。本来、現世で享受できる最高の幸せを提供してくれるはずの結婚状態が、日々見られる数多くの場合に、あまりにも不愉快なものになっているのは不幸なことと考えます。この不幸は一般に自分たち自身の思慮に欠ける選択に起因します。また、幸せを与えてくれる可能性のないものに、期待感を抱くことにも起因します。思慮分別への愛着の基盤となりうるものは、愛する人の徳にほかなりません。美德、英知、快活、行儀作法以外のものに幸福を期待する人は、自分たちが大きな思い違いをしていることに気づくことでしょう。こういったことを追求し、富を唯一の目標ではないにしろ、主たる目標にしない人はごく少数なのです。男性が結婚のことを考える場合に、誠実で快い伴侶を持ちたいと考える人も稀です。苦勞を共にし、喜びを倍加させてくれ、彼が委ねる財産を慎重につましく管理し、儉約と分別でもって家事を取り仕切り、自分や子供たちの誇りとなる相手を選ぼうとしないのです。主たる幸福を美德の実践に見出し、義務を持続的な喜びとする女性を捜し求める男性はどこへ行けば見つかるのでしょうか。否、男性は自分たちの欲望の補完物としてのお金を得ようとしします。彼らは妻とは関係なく、富こそがあらゆる喜びの代理人になり、愛人や馬や猟犬を維持し、仲間との飲食や遊びをし、それまでの浪費とか何らかの下劣で恥ずべき目的のためにできた借金を支払い、人間性にとって恥辱的な喜びに耽ることができると考えます。さて、女性の方はどうかと言いますと、結婚の幸せを賢明で徳高い友を持つことに置く人はごく少数です。あらゆる人に信義が厚く高潔であり、絶えず愛情に溢れ、注意深く熱心に財産を増やし、

2) ロバート・ウィルクスは1670年生まれで、1732年9月27日に没した。当時最も名高い役者だった(『ジェントルマンズ・マガジン』12. 979)。

3) この手紙はジェイムズ・ヘイウッドのもの。ニコルスによると、この人物は長年に渡ってフィッシュ・ストリート・ヒルで布地の卸商を営み、1776年7月23日に90歳で亡くなったとのこと。

分別があり正しいものはすべて心から受け入れるような人は稀です。どちらかと言えば、幸せを誇示し、見せびらかしといった点で他人より勝ろうとすることに見出す人の方が多いのです。そして、金持ちと結婚すると、内心で、自分たちの知人の誰もこれほど立派な供回りを抱えていなく、着飾ったものもなく、家具にしても自分たちのような素晴らしい家具を持っているものはいないのだと考えます。このように、頭の中はただただ虚栄心が渦巻くことになってしまいます。私に言わせると、供回りや見せびらかしは何の役にも立たないのです。

このように、男女共自分たちをごまかして、最も幸福で高潔であるべき生活状態に不名誉と恥辱をもたらすことになります。だが、もし彼らが墮落した嗜好を矯正し、野心を慎み、幸福を適切なものに見出すなら、結婚状態の至福に今日のような驚くべき現象を見出すことにはならないでしょう。

もし貴殿が、以上の考えが掲載するに値するとお考えでしたら、どうか見栄えを良くして世間に広く伝えて頂きたいものと願う次第です。

敬具

エイ・ビー

拝啓

本日通りを歩いていましたとき、たまたま道路の反対側を美人が歩いているのが目に留まりました。すっかりそちら側に目を取られるほどの魅力を放っていたのです。そのため、小生は足下もおぼつかなくなると、鼻を標柱にぶつけてしまいました。その婦人はそのことに気づくと、自分が小生の災難の原因だと分かっていたのですが、吹き出したのです。これは、小生に言わせると、この上なく無分別な行為です。小生は顔に滴り落ちる血を拭うので躍起になっていましたので、彼女に彼女の非人道的行為を知らせる暇はありませんでした。同時に、二度と女性に目を取られてわき見はしないとの小生の決意を知らせる暇もなかったのです。それゆえ、この仕返しができますように、貴殿の紙面にこの件を掲載して頂きたいものと考えます。それによって、小生だけに留まらず、女性を見つめるすべての人々への警告となってもらいたいものと希望します。

敬具

見とれるアンソニーより

拝啓

貴殿の今後の紙面では、「牧師さんが外套を無くした」⁴⁾というゲームが先だっのクリスマスに貴婦人たちの間で流行していたかどうか知りたいものと切に願っております。

4) 1738年2月4日の「クラフツマン」の子供のゲームの記事に、クロムウェル時代のゲームとして「牧師さんがファドリングカップを無くした」との記述がある。ファドリングカップは17-18世紀のイギリスの3個以上のカップが底でつながった陶製の酒盃でどの飲み口からでも中身を全部飲み干すことができた。

と言いますのは、貴婦人たちがさまざまな色のフード⁵⁾を被るのはそのゲームのためではないかと思うからです。もしその通りでしたら、ヨークシャーのわがご婦人方へのお土産としてはフードが適切なのです。なぜなら、わがご婦人方はロンドンで最新流行の品物をお土産にすると大層喜びますので。もし貴殿から私のやるべきことで、何かご助言がございましたら、是非お知らせください。よろしくお願いします。

敬具

拝啓

12月29日オックスフォードにて

貴方は打ちひしがれた人の味方だと思えますので、私が苦しんでいますある件につきましてご助力願えませんか。当地で君臨する評判の美人にパテシアという女性があります。私はこの1年間というものの必死に彼女を追いかけて来ました。そして、私よりも上手くお世辞を言う一人以外には私の邪魔立てをする人はいません。彼女お気に入りの情念は自尊心です。そこで、もし貴方が私に味方して、紙面のどこかで彼女のことを好意的に述べていただけますと、私の求愛は失敗しないものと信じています。きっと貴方の時代もそうであったと思いますが、学生たちは彼女を目当てに幾列にもなって直立するのです。彼女は異性を知らず世間知らずの数多くの若者たちから崇拝されています。いずれにしても、私の誓い通りに首尾よく行けば、私は世界一幸福な男になるのです。何卒よろしくお願い致します。

敬具

前略

今朝、恋人の化粧室まで入って行きました。と言いますのは、小生は化粧前でも入室が許されているのです。小生が盗み見したことを口にしますと、彼女は顔をしかめてフンと言ったのです。小生の言ったことはひどかったのでしょうか。ほかの人ならいざしらず、君はそれは控えるべきですよ、つけぼくろをすると折角の美しさが台無しになってしまいますよ、と小生は言ったのです。

草々

第269号 1712年1月8日（火曜日）

【アディソン】

昨今、かつての実直さを目にするのは
極めて稀になった。(オウィディウス)¹⁾

1) オウィディウス『恋の技法』1.241-2

今朝、突然ドアをノックされて驚きました。下宿の娘さんが上がって来て、私とお話したいという男の人が階下に来ていらっしやるとのことでした。彼女にどなたかと尋ねますと、とても真面目そうな初老の方ですがお名前は知らないとのことでした。直ぐに下りて行きましたら、その人は尊敬に値するわが友人サー・ロジャー・ド・カヴァリの御者でした。彼が言うには、主人は昨夜町に到着し、私と一緒にグレイズ・イン遊歩道を散歩したいとのことでした。このところ彼から手紙がありませんでしたので、どうして今頃サー・ロジャーはやって来たのだろうかと考えていますと、主人はウジェーヌ公²⁾を一目見るために上京したのだということ、そしてまた、私に直ぐに会って欲しいとのことでした。

私は親愛なる勲爵士の好奇心に少なからぬ喜びを覚えました。もっとも、二人だけの話で一度ならず、自分はウジェーニオ公（彼はいつもそう呼ぶのですが）のことをスカンデルベグ公³⁾よりも偉大な人物だと言っているのを聞いたことがありますので、それほど不思議には思いませんでした。

私がグレイズ・イン遊歩道にやって来ますと、わが友人がテラスで二度三度勢いよく咳払いをしているのが聞こえました。彼はしばしば（彼の言い方をすると）新鮮な空気を吸って気管の掃除をするのです。そして、彼は、朝の咳払いに発揮する力強さを誰かに気づいてもらうことに少なからぬ喜びを見い出すのです。

この前、乞食から施しを求められ、仕事を見つけない彼を叱ったものの、ポケットに手を入れ6ペンスやっていた善良な人物を目にして、私は密かな喜びを覚えました。

私たちの挨拶は互いに、何度も手を握り合い、何度もやさしく見詰め合う心のこもったものでした。その後で、勲爵士は、わが友人である善良な牧師も壮健でよろしくとのことであったと言うのでした。さらにまた、この前の日曜日にはこの牧師がバロウ博士⁴⁾のとても素晴らしい説教をしたのだと教えてくれました。彼が言うには、雑務はすべて彼に委ね、彼の恩義に心から報いるために、貧しい教区民に施すように30マーク⁵⁾預けてきたのだということです。

つぎに、彼はウィル・ウィンブルの暮らしについて教えてくれました。このとき、彼は

2) ウジェーヌ公は、イギリスがスペイン抜きを慎むならイベリア半島に派兵をして欲しいとのカール6世の親書を持って先週の土曜日の夕方来英したところ。彼の友人で仲間のマルバラ公は女王によって、先の12月31日役職を解任されたばかりだった。その結果、ウジェーヌ公の来英はとりわけホイッグ党の間で大変な騒ぎを引き起こした。「政府と野党は、互いに彼を歓迎し、自党のために利用しようと躍起になった。ホイッグ党は、われらの傷ついた英雄の友人であり戦時のパートナーとして彼を褒め称え、不名誉な平和を避けることができると賞賛した。一方のトーリー党ももちろんマルバラ公よりも偉大で気高い将軍として声高に彼を歓迎した」とトレヴェリアンは記している。彼の使命は不首尾に終わり、3月17日にイギリスを立った（『ポストマン』3月18日）。

3) エペイロスのスキャンデルベグ公は15世紀にトルコとの戦いに勝利した。エペイロスは現在のギリシアの北西部にあたる地域。

4) バロウ博士については、第106号参照。

5) 1マークは13シリング4ペンスつまり3分の2ポンドに相当した。したがって、30マークは20ポンド相当となる。

時計入れのポケットに手を入れ、タバコ詰め具を取り出し、私に差し出しました。そして、ウィルは初冬はずっとこれを大量に作るので忙しくしており、田舎にいる高潔でタバコを吸うすべての紳士にひとつずつプレゼントしたのだということでした。トム・タッチーが垣根からハシバミの枝を切り取ったことでウィルを告訴したために、気の毒なウィルは現在大変苦しい立場に追いやられている、と付け加えるのでした。

勲爵士がいろいろ伝えてくれた田舎のニュースの中に、モル・ホワイトが亡くなったというニュースがありました。彼女の死後1ヶ月間ほど風がとても強かったので、納屋の一部が吹き飛んだとのことでした。サー・ロジャーが言うには、モル・ホワイトはそのことには関係ないと思うとのことでした。

彼はその後、休暇中に彼の家で行われた気晴らしについて説明を始めました。サー・ロジャーは、先祖の賞賛に値する慣わしに倣って、クリスマスにはいつも家を開放するのです。彼が言うところでは、このシーズンは丸々太った豚を8頭殺し、近隣に背骨付き肉を惜しげなく分配し、また、特に教区の貧しい家庭にはすべて豚の腸詰めを10本とトランプ一組ずつ付けて送り届けたとのことでした。常々、クリスマスが真冬になっているのはよく出来ていると思う、とサー・ロジャーは言います。もし貧しい人々が楽しみも暖かい火もクリスマスの遊びも何一つなかったら、クリスマスは貧困と寒さに苦しむ1年でも最も不毛で不快な時期となります。私はこのシーズンに貧しい人々を喜ばせ、村中の人々がわが家の大広間で愉快に過ごしている姿を目にするのが好きなのです。12日間、スモールビールに2倍のモルトを出して、やって来る人誰にでも振舞うのです。テーブルには、いつも、コールドビーフとミンスパイを置いて置きます。小作人たちが一晩中無邪気な悪ふざけをしたり、互いにすすを塗りあって過ごしているのを見るのは実に楽しいものです。こういった時、わが友ウィル・ウィンブルもほかの人々と同様に愉快に過ごし、数知れないいたづらををするのです。

私は善良さそのもののわが友人の考えを聞いてとても嬉しく思いました。彼はその後、英国国教会を守る最近の国会制定法⁶⁾を褒めだしました。そして、とても満足げにすでに効果が出始めていると言うのでした。偶々クリスマスに彼の家で食事を共にした頑なな非国教徒がプラムポリッジ⁷⁾を大量に食べたのです。

サー・ロジャーは、田舎の出来事をひとしきり喋ると、クラブのこと、特によきライバル、サー・アンドリュー・フリーポートについていろいろ尋ねるのでした。彼は、笑いながら、サー・アンドリューは自分がいけないことにつけ込んで共和主義的な教義を振りまかなかったかいと尋ねました。だが、直ぐに真面目な顔つきで、どうだろう、君はサー・アンドリューは教皇の行列⁸⁾に仲間入りしたと思わないかい、と彼は言います。ところが私

6) 「便宜的国教徒禁止法」はトーリー党によって1702年に下院に提出されていたが、1711年12月7日にやっと成立した。だが、1719年に廃止され、非国教徒は1689年に認められた自由が再び与えられた。

7) プラムポリッジはスモモやレーズンの入ったおかゆで、クリスマス料理のひとつであった。

8) 教皇の行列については、第262号参照。

が返事をする間もなく、そうそう、君は慎重な人で、公のことについて喋るのは嫌だよね、と言います。

つぎに、勲爵士は私にウジェーニオ公を目にしたかと尋ね、来英がわが国民にとって多大の誉れとなるこの非凡な才能の持ち主がしっかり見える格好の場所に連れて行って欲しいと頼むのでした。彼は長々とこの偉大な大将を褒め称えました。彼の考えは、私が彼と田舎で共に過ごして以来、広間の窓辺に並んでいるウジェーヌ公の名誉を大いに称えるベーカーの年代記⁹⁾とかその他の著書からの寄せ集めたものであることが分かりました。

午前中はほぼ丸々、ひとつには私的な、またひとつには政治的な勲爵士の意見を聞いて過ごす、彼はスクワイアーズ¹⁰⁾でコーヒーとタバコでもやらないかと言いました。私はこの老人が好きですので、彼がやりたいことには何にでも喜んで従います。というわけで、彼のお供をして、そのコーヒーハウスまで出掛けました。彼の高德の姿はコーヒーハウス中の注目を浴びました。彼は一段高くなったテーブルの上席に腰を下ろすとすぐに、真新しいパイプとタバコ1包みとコーヒーとロウソクと増刊号¹¹⁾を非常に元気よく上機嫌で頼みましたので、コーヒーハウスの給仕たちは全員が(彼の給仕をするを楽しみにしているように思えるのですが)、すぐさまその準備に取り掛かりました。勲爵士の注文がすべて整うまでは、他の誰もがお茶にありつけないほどでした。

第270号 1712年1月9日(水曜日)

【スタイル】

多くのものがあざけり非難するのは、ひとえに、
正当で公正なことを念頭に置いているからだ。(ホラティウス)¹⁾

このところ長年に渡って、先日『冷笑的な婦人』が上演されたときのボックス席を眺めたときほどの大きな喜びは経験したことがありません²⁾。なみいるご婦人方がありとあらゆる宝石、絹、さまざまな色調の装飾品を身につけてなだらかに横一線になっている様子は、心にとっても生き生きとした陽気な印象を与えたので、季節感が無くなってしまったように思えました。私は、私の近くにいた若者がそれをチューリップの花壇だと表現したのをひどいこととは思いませんでした。貴婦人たちのひとりが立ち上がり、ひざを折り曲げて、自分自身と遠方にいる友人に敬意を表したときは、花壇の眺めが見事に変化した

9) ベーカーの年代記については、第37号参照。

10) スクワイアーズ・コーヒーハウスについては、第49号参照。

11) 増刊号は、トリーの『ポスト・ボーイ』の発行者ジョン・モーフューによって、1708年から1712年7月まで、月、水、金に発行された。

1) ホラティウス『書簡詩』2.1.262-3

2) 1712年1月11日付のペリンダの手紙は、この記事でのサシェヴェレル博士への無礼に不満が述べられている。

のです。彼女はその友人が返礼をするときには同じようにその魅力を発揮する機会を提供しました。そういった行為は、教会では似つかわしくなく場違いですが、ここ劇場では、ふさわしく優雅な行為なのです。ところで、失礼をも省みず申し上げますが、通常、教会できちんと礼儀作法をわきまえている人が、芝居の最中にこのような不作法になれるとは思いませんでした。こういった美しい眺めは、私たちの心を楽しませ、一般的に考えますと、無邪気で楽しい感じを与えてくれます。美についてこだわる人は、想像力を心の不安に結びつけるかも知れませんが、集団全体を併せて静観することは、欲望の侵犯に対する防御となります。少なくとも、私は、美人は欲望の対象と切り離れた形で捉え、権力は共有したいとの希望を抱かずにあるがままで捉え、知識と能力はその修得を張り合ったりうらやんだりはしないのです。要するに、美女を見たり、他人の成功に活を入れられても妙な希望を抱かないことにしている私にとっては、この世は単なる光景であるだけでなく、とても楽しい光景なのです。もし人々がこのように超然とした見方には数知れない自由があると分かれば、国で一番の権力者が従える家来の数よりもっと多くの模倣者が現れるに違いありません。愛あるいは仕事において誰のライバルにもならないことは、生活を共にする人たちの善意に委ねなくても必ずや効果の出る特性となります。その結果、大半の人たちが必死になることを欲した場合でも、必要以上に願わなければさほど人々の賛意を必要としなくてもすみます。私は、このように気楽に考えて、劇場にいる時には芝居に専念するのです。だが実際には、演技に満足するのは稀です。なぜなら、大半の人はナイトガウンを着ているときほどには造物主に従わないからです。そして、一日のうちで多忙に過ごす時間帯は、自分自身あるいは見つめる人の役割を演じるからです。ところで、わがご婦人方に話を戻しますと、芝居に登場する多くのご婦人方を目にして大層満足しました。ヒロインは文字通り、求婚者たちを苦しめる女性の虚栄心を絵に描いたような人物です。ヒロインが横柄にかつ不実に扱う男性を恋い慕う婦人は、とても巧みにまたユーモアたっぷりに描かれています。非常に礼儀正しい彼女の決意、心から自分の気持ちを伝える決意をしたときに生じる虚栄心は、女性について研究したことがある人物が描写したものです。この素晴らしい人物とその他2、3の人物に私の賞賛の対象が絞られるのですが、正直言って、私は牧師の些細で無分別で不自然な描写に対してこの上ない憤りを覚えました。叙階には³⁾ おそらく銜学者というものがあるのかもしれませんが。私たちはそんな人物を2、3人見掛けたことがあります。サー・ロジャーのような戯言をいう人物は、銜学者の特徴である誇りがことごとく奪われ、芝居を引っ張っていく人物とは信じられないものになっています。ウェルフォードとの出会いでは、彼は銜学者の威厳は何一つない気の毒な人物となってしまいます。タマゴを求めて朝4、5マイル使いに出されるのだ⁴⁾と語るのは、どう見ても常軌を逸しています。彼と彼が言い寄る女性の箇所は実に見事に演じられてい

3) この箇所をシバーが取り入れ、ブースがウェルフォードを演じた。サー・ロジャーとウェルフォードの出会い、冒頭のシーン。牧師は「そうです、私は、朝になると、タマゴを求めて3、4マイル歩くのです」と語る。

4) この場面は、4幕1場。

るのは否定できませんが、それ自体は非難に値するものであって、目的が実行されることによって、さらにひどいものになっています¹⁾。聖なることは言うまでもありませんが、尊敬すべきものを中傷的に描写してふしだらな老人を喜ばすことは、とてもさもないことですので、著者はいかに長所を発揮してもその埋め合わせは出来ません。それどころか、そのような長所は自らの罪責感を増大させることとなり、自らの悟性と良心への信念に背く主張となります。機知はこのルールに従って試されるべきであって、信仰あるいは品位を軽蔑されないよう保護する信望が投げ捨てられるようなシーンに、観客は怒るべきです。ところで、軽蔑というものはすべて、悟性というよりも美德に対する侮辱に憤慨させる心が腐敗することに起因します。このように心が腐敗してしまいますと、著者はまるで家には名誉を重んじる人も貞節を重んじる人もいないかのような書き方をし、その結果、拍手喝采を浴びるものと考えます。なぜなら、十戒に対する侮辱は、ほとんど批判されることがなく、時と場所の一致の侵害ほどひどいことではないからです。才人の半数は、マナーの墮落から必然的に生じる悲惨さを理解していません。また、彼らには秩序が社会の土台であることが分かっていません。サー・ロジャーと彼の恋人は、詩人たちが創り出した化け物なのです。両者の感情は、教育の貧困さから生じるものではありません。愚かな学者というものは、出会うすべての人よりも低いどころか、実際には自分より上位の人たちよりも高位にいるのだと考えて得意がるものなのです。この尊大さの基盤には常に卓越さに対する独特の考え方があり、自らの知識と学問に比較して、財産と優秀さをことごとく学術的に馬鹿にする気持ちが伴うのです。実際に愚かなことですが、サー・ロジャーのまさにこの性格が、この著者あるいはその他の著者がその後の長い生活での行為の埋め合わせをする機知では償うことができないほど、叙階を貶めることになっており、その結果美德そのものをも貶めているのです。このように言うとき、私は、自分は仲間たちよりも徳高いのだと言っているのではなく、人類が常に支配されている原理原則からそう主張しているのです。想像力のほとばしりは、それが賞賛に値することを推奨する熱意に委ねられる場合は、大目に見ることが出来ます。だが、機知を駆使して故意に悪徳を助長することは、治安判事の前に持ち出される行為と同じくらい邪悪なことであり、人々もそのように受け止めるべきです。

第271号 1712年1月10日(木曜日)

【アディソン】

太陽と真向かいに千のとりどりの色彩を
なびかせた。(ウエルギリウス)¹⁾

わが寄稿者の手紙から、私は二つの利点を授けられています。ひとつは、わが新聞が読者に受け入れられている様子が分かることであり、もうひとつは、新たな思索の材料が与

1) ウェルギリウス『アイネーイス』4.701

えられることです。実際に、時には手紙そのものを利用しないで、手紙のことはほのめかすに留めて、自分で考え出したかのように作り変えてしまいますし、時には言葉や考えを（意味を損なわずに）勝手に自分の喋り方や考え方に改変し、たいていの場合は私に対して授けられているお世辞や賞賛の言葉を割愛してしまいます。

以上の二つの利点のほかに、寄稿者の手紙は、最後に添えられている署名の箇所を巧みに操ることで、紙面を膨らませる機会を提供してくれます。おそらく、これは私自身だけでなく読者に少なからぬ安らぎを与えているのです。

中には、私自身が自分宛に手紙を書いているのであって、私が抱えている几帳面な寄稿者としては私しかないのだと主張する人がいます。この異議申し立ては、私がみんなにお伝えする手紙に私自身の賞賛がふんだんに盛り込まれており、読者の楽しませたり教示したりしようとはせずに、自分の功績を褒め称えていれば、実体を伴うものになるに違いありません。こういった思慮分別に富む憶測は読者のみなさんの想像力にお任せすることとして、本日の楽しみとして以下の3通の手紙をお見せしたいと考えます。

前略

先週の木曜日、小生は13色の色とりどりのフードを被ったご婦人方の集まりに同席しました。彼女たちからテーブルの上にあった当日の貴紙を読んで欲しいとの依頼を受けました。小生は最後のギリシアの詩²⁾の箇所までよく聞き取れる明瞭な声で読み進みました。正直言って、まったく予期しないところで、突然ギリシアの詩が登場したことに、小生はかなり驚きました。しかし、小生は出来る限りうまく動揺を隠して、難解な単語を2、3語つぶやいてから、心から笑い、「実に、よく出来た冗談だ」と声高に言いました。ご婦人方はその説明を望みましたが、小生はそれをやんわりと断り、ご婦人方が聞くにふさわしい内容であれば、筆者はギリシア語で包み隠すようなことはしなかったものと思いますよ、と告げました。そのとき、小生はご婦人方の前で口にするにはふさわしくないことがあるかのような表情をして見せたのです。すると、サクランボ色のフードを被った既婚婦人が、汚らしい考えをギリシア語に翻訳した筆者の分別を称えました。そうしないと、悪影響を与えられる読者もほんの少しはいるとのことでした。同時に、彼女は筆者がこのところ流行しているフードについて断定的な意見を述べていないことにとても満足しているとの考えを表明しました。彼女が言うには、実を言うと、自分は筆者がフードを批判するのではないかと危惧していたのだとのこと。ところで、貴殿に分かって頂かなくてはなりませんが、ご婦人方の間でとても利発な人物として認められています小生にこの不幸な出来事が降りかかってから、ギリシア語に精通しています人物に相談をしたところ、先日の引用は、そのまま「女性に光彩を添えるのは、ドレスではなくマナーなのだ」の意味なのだということを確信したのです。もしこのことが小生を崇拝する女性たちの知るところになれば、小生が堂々と振舞っていくことは極めて困難になるものと思います。小生

2) ギリシア詩については、第265号参照。

としましては、今後は貴殿の支持者を厄介な事態に巻き込まないように注意していただければと考えます。何卒よろしくお願い致します。

草々

トム・トリピット

観察者殿

読者はサー・ロジャー・ド・カヴァリの人柄にとっても満足していますので、勲爵士が上京なさっていると聞き、すべてのコーヒーハウスには相当な喜びの話題ができたようです。私はたった今サー・ロジャーを崇拝する人たちと一緒にいますが、誰もが貴殿に勲爵士が顔を見せる窓とかバルコニーを教えて欲しいと願っています。すでにスクワイアーズ・コーヒーハウス³⁾で彼を見掛けた人たちは大いに満足しています。もし貴殿が貴殿の短い顔をサー・ロジャーのひじ先に並べるのが適当とお考えですと、私たちにはそれと分かり、とても有難いのですが。どうぞよろしくお願い致します。

草々

シー・ディー

前略

貴方は好奇心をそそることは何でもお知りになりたい方だということが分かっていますので、もしよろしければ黄昏時にお待ちしています。お見せしたいものを背負って行きます。それは男と女と馬なのですが、箱に入れて持ち運んでいるのです。男女は結婚しており、小柄な伊達男は見事な振舞いをしますし、婦人は身ごもっています。大きなお腹の女性と夫、それに気まぐれな馬を併せても非常に軽量ですので、一緒に秤に掛けても、普通の人一人の重量にも及びません。小柄な男は気立ては荒いのですが、彼が痼癪を起こしますと、怒りが治まるまで箱に閉じ込めます。私はこれまでこうして彼のいたずらを防いできました。馬も同様に凶暴なのですから、私はやむを得ず荷造り用の紐で飼葉おけに結わえておかなくてはなりません。女性は男たらしです。彼女は背丈2フィートで精一杯気取って歩き、彼女にガウンとベティコートを作ってやると大きな針山となってしまい、私は破産してしまいます。先日、彼女のご婦人方が色つきのフードを被っているそうなので、奇麗なブルーのフードを買って欲しいと注文してきました。彼女は現在同類と見られたがっていますので、私としては彼女の要求に従わざるを得ません。彼女が何をもたらししてくれるかは分かりませんが、もしそれが見世物でしたら、私は非常に満足するものと思います。私が思いますに、こういった珍奇なものはイギリスの観察者に隠すべきではありません。そういうわけですので、貴方にはこの厚かましいお願いを大目に見て頂きたいと思います。

草々

エス・ティー⁴⁾

3) スクワイアーズ・コーヒーハウスについては、第49号参照。

第272号 1712年1月11日（金曜日）

【スタイル】

語れば長い話です、彼の非道な行いは。（ウェルギリウス）¹⁾

拝啓

この手紙を書くきっかけも事情も極めて重要なものですので、貴殿のもとに寄せられる他のあらゆることに優先して、この手紙を貴紙に掲載して頂けるものと考えます。ここまで言ってしまうと、私が恋をしているとお伝えする必要はありません。私の熱情は、取り乱した心が認めているのですが、貴殿にも理解して頂けるものと思います。あの呪わしいおべっか使いのジェーン夫人よ。哀れなことに、まるで貴殿が私だけでなく彼女のことも知っているかのように、私は親しげに名指しで毒づいているのです。愛と怒りが交互に訪れるその様子をすべて貴殿にお伝えします。この世に私が熱烈に恋をしている非常に感じのよい若い女性がいます。ある時、彼女から好意を寄せられたのです。ほかの何にもまして、幸せにとって不可欠な二人の関係が良好に進捗することで、私の振舞いや話に新たな生命と活気が与えられただけでなく、愛とは無縁ではないにしても、私の生活のあらゆる行為にある種の恵みが与えられたのです。お分かりのように、この支配的な感情は人のあらゆる言動に浸透し、その感情次第で有頂天になったり意気消沈したりするものなのです。でも残念なことに、まだ私の話は始まっていません。人生の弁護をするとき、何が決め手となるのでしょうか。まず第一に、この婦人と私は、彼女は私のベリンダ、私は彼女のクレアンテスという名で文を交わしています。こうして二人の関係の説明に入っているのですが、仮名で隠すつもりはありませんが、貴殿にジェーン夫人の人柄について語れるほどの関係にはなっていません。（今後はどうか分かりませんが）この人は知り合ってからとても礼儀正しく、美しい盛りの時は恋人たちにとっては暴君であり、自分を買いかぶり、求婚者たちを見下していましたので、誰もが彼女から離れていったのです。彼女のような状況の人に共通の他人の情事を妨害する楽しみ以外には慰めがないことは彼女には分かっています。ひょっとしますと、貴殿はこのように悪意を進んで実行する人を何名か見掛けたことがあるに違いありません。彼らは、自分たちと同様に、人々を不幸な目に会わせてやるのだという希望以外には何の利益も無いのに、四六時中情報の収集に努め、噂話を撒き散らして過ごしているのです。ジェーン夫人はたまたま、ベリンダへの私の情

4) エス・ティーのショーは第326号に、つぎのような広告が掲載される：「貴顕紳士たちの要望により、チャリング・クロスのミューズゲートにてつぎの珍奇な見世物を催す。背丈は3フィート、年は32歳のどこから見ても均整の取れた小男。二人目はその妻、背丈は2フィート9インチ、年は30歳。彼女は数人の有能な医師の助けを得て、長時間に及ぶ陣痛を終えてベッドに。これだけの小柄で赤ん坊を産んだのはヨーロッパで初。同様に、彼らの馬も小さく2フィート少々。この馬は指示されると実に巧みに動き、箱に収まるほど小さい……」

1) ウェルギリウス『アイネイス』1.341-2

熱を熟知している人たちと一緒に、クリスマスの夕べを過ごしていた場所に居合わせたのです。その中に、とても陽気でかつとても慎み深い若い婦人がいました。私は彼女を控えめな人だと誤解しますが、彼女には、節度の無い喜びを自制したものではなく、天真爛漫さから流れ出てくる天性の陽気さ、つまり、快活さが伺えました。忠実で愛らしいベリンダとまったく同じ生き方を約束していると思える卓越した人物がいなければ、成長して申し分のない美徳を発揮する人物を無視して、ベリンダのことをまったく失念していたに違いありません。集いがお開きになったとき、この美しい娘さんは私に家まで送らせたのです。ジェーン夫人は私が彼女に特別な関心を寄せていることに気づき、私が彼女の父親の家まで送り届けたとの情報を手に入れました。彼女は翌朝早めにベリンダのところにやって来て、誰某夫人とご一緒だったのですかと尋ねました。誰某夫人ですって？ そんな方は知りませんよ。貴女の従姉妹の誰某さんでもありません。まあ、女性同士の友情って何なのでしょう、と彼女は言います。そうね、笑うのも当然ですわ。昨夜、貴女は貴女の恋人誰某氏の振舞いについて、誰からもお聞きになりませんでしたの？ でも、おそらく、その方が今度の火曜日に、若い〇〇夫人と結婚なさることは、貴女にとっては何でもないこのなのね。そこでベリンダは怒りと嫉妬で今にも死にそうになりました。ジェーン夫人は話を続けます。私の親戚にある著名な不動産譲渡取扱弁護士の書記をしている青年がいます。彼に頼めば、夫婦財産契約書の草案を見せてくれます。世間の噂では、彼女の父親は、彼に対して貴女よりも2千ポンド多く出すとのこと。私は何食わぬ顔でいつものようにベリンダのもとを訪ねましたが、受け入れられませんでした。手紙を出しましたが、開封されずに送り返されました。ベリンダのお手伝いの可哀想なベティーは、私の味方ですが、今では涙を流しながら、ことの全容を教えてくださいました。彼女が言うには、ご主人は私がこれほどあさましい方とは思わなかったとのこと。そしてまた、ご主人は私のことをよく言うと不愉快になられるので私のことを話題にはできないとのこと。この事情を貴紙で公平に述べて頂くことにすべての望みをかけています。そうして頂けると、私のことを話題にすることができる、とベティーは言います。さらに、貴殿に口火を切って頂けると、私たち二人の関係を認めてくれると約束してくれました。私が審問を受けることになれば、この娘さんが、会ったのはただの1回限りであったことにうそ偽りが無いことを証言してくれます。お願いですから、この真実の関係を無視したり、あまり特別扱いをしたりしないでください。なぜなら、ひたすら恋人たちの希望や両親の期待や一族の善意を台無しにしたいという恨みから、他の婦人方と交際し親交を結ぶ哀れな伊達男が数多くいるのですから。私は間違いなくその一人なのです。

敬具

クレアンテス

1月10日、ウィル・コービーハウスにて

前略

先日、私はご婦人方で彩を添えられた部屋に入って行き、いつものように一人ひとりに

キスをしましたが、一人だけ横柄に頬を背けた女性がいました。貴方の助言があるまでそのことは気にしない方がいいと考えました。

草々
イー・エス

寄稿者はその無礼な方が頬をどちらに向けたのか伝えて欲しいものです。

お知らせ

1月9日、教区教会の礼拝室より
最新流行のフードを被って教会に来られるすべてのご婦人方は、
信徒のみなさんの注意をそらさないように、
礼拝の始まるまでにお出でいただきたいものです。

ラルフ

ティー²⁾

第273号 1712年1月12日（土曜日）

【アディソン】

マナーをきちんと守りなさい。(ホラティウス)¹⁾

『失楽園』の行為についてはすでに考察しましたので、つぎに行為者について考えてみます。アリストテレスの方法を用います。最初に寓話、つぎにマナー、つまり、英語で言えば一般に、寓話と登場人物²⁾を扱います。

登場人物の多様性という点では、これまでの英雄詩人の中では、ホメロスが群を抜いています。彼の詩に登場する神々はすべて、それぞれの神性にふさわしい役割を演じます。彼の描く君主たちは、マナーと領土の点で際立っています。また、もっぱら勇気の権化のように思える人物たちでさえ、秀でている勇気がそれぞれ異なっています。要するに、

2) リリーは、1月24日付のイトンからのティー・エイチの署名入りの女性のお喋りに関する手紙を活字にしている：「小生は噂話を振りまくタトル夫人にはほとんど参っている若者です。彼女は馬は持っていないものですから、醜聞を振りまくのに馬2頭つぶしたとは言えませんが、彼女の舌がよほど長くない限り、確実に根元まで磨り減っていたに違いありません。すべての女性の舌の中で、小生は彼女の舌に最も同情します（同情に値して欲しいものですが）。なにしろ仲間内では彼女の舌は、たとえ寝ているときでも、休む暇はないとのことですから……」

1) ホラティウス『詩の技法』156

2) アディソンはマナーについて考える際に、アリストテレスの方法に従うのだが、登場人物とマナーを同一視するとき、少々単純化し過ぎている。厳密に言うと、「マナーは人の性格付けをし、善悪の性癖を示す」（ダシエール）のである。ル・ボッシュはマナーを先天的後天的な性癖すべてだと定義する。アディソンは、第302号において、墮天使の性格を分析してここで述べたことをさらに敷衍している。

『イーリアス』の発話あるいは行為はすべて、その行為者の名前が分からないと読者には誰のものか分からないのです。

ホメロスは、多様性だけでなく、登場人物たちの斬新さにおいても、他の詩人より優れています。彼はギリシアの君主たちの中に、三代に渡って生き、テセウス、ヘラクレス、ポリュペモス、および初期の英雄たちと付き合いの会った人物³⁾を登場させます。ホメロスにおける主要な行為者は、同じように彼の詩に座を占める他の神々の子孫や幾多の王と英雄たちの父である徳高いトロイアの君主は言うまでもなく、女神の息子なのです。ホメロスの描くこういった人物には、斬新さはもちろんある種の威厳が備わっています。このことが英雄詩にうまく馴染んでいます。同時に、登場人物に変化を添えるために、彼は神々の中にバルカンのような神つまり道化を、人間の中にテルシテスのような人物を描いています。

ウェルギリウスは、登場人物の多様性と斬新さの点ではホメロスの域に大きく達していません。アイネイアスは確かに完璧ですが、アイネイアスの友人とされているアカテスに関しては、どこを見ても、その肩書きに値するものは見つかりません。ギュアス、ムネーステス、セルゲストゥス、およびクロアントゥスは、すべて同じ特徴と性格を備えた人物となっています：「ギュアスとクロアントゥスの勇姿を心中に思い浮かべる」⁴⁾

ディードはあまり褒められませんが、アスカニオスの箇所には、確かに極めて自然な挿話が散見されます。トゥルヌスには目新しく格別なものは何もないと思います。パラスとエウアンドロスは、ヘクトルとプリアモスの写しに過ぎませんし、ラウスとメゼンティウスはほぼパラスとエウアンドロスの相似と言えます。ニーソスとエウリュアロスは美しいのですが平凡です。シノーとカミーラおよびその他改善された若干の人物を忘れてはなりません。要するに、『アイネーイス』の登場人物には、『イーリアス』におけるような多様性も斬新さも伺えないのです。

ミルトンの登場人物を調べて見ますと、彼の寓話が受け入れることができるありとあらゆる多様な人物を登場させていることに気づきます。彼の詩の主題が限定される時代には、人類は二人しかいませんでした。しかしながら、私たちはこの二人に四人の特徴を見ることになります。この上なく崇高な清浄と完璧とこの上なく卑屈な罪悪感と意志薄弱がそうです。罪悪感と意志薄弱は、確かに、とても平凡で分かりきったことですが、清浄と完璧はウェルギリウスやホメロス、あるいはその他の詩人たちの人物たちより崇高であるだけでなく、斬新なものです⁵⁾。

ミルトンは彼の詩の主題の弱点とこの主題が生み出す人物の少なさを十二分に気づいていましたので、架空つまり虚構の行為者を二人、罪と死という形で取り入れました。彼は

3) ネストルは、ピュロスの王で、トロイ戦争時のギリシア軍の老将。

4) ウェルギリウス『アイネーイス』1.222

5) ジョン・デニス(1657-1734)は、『詩論の基礎』(1704)で、「ミルトンはほぼ4千年におよぶ歴史にあって、自国および自身の名誉のために、独創的な詩、つまり、自身の考え、自身のイメージ、そして自身の精神を込めた詩を世に問うた最初の詩人だった」と述べた。

こうすることで、彼の寓話の集合体をとっても美しく見事な寓意詩に仕立てたのです。ところで、この寓意詩のきめのこまやかさがある程度弱点を補っているのですが、私はそういった架空の人物が叙事詩の行為者として適切ではないと考えます。その理由は、いずれ詳しく述べますように、これらの架空の人物は、叙事詩の創作の必要条件となる蓋然性はないからです⁶⁾。

ウェルギリウスは、実際に、『アイネーイス』に、女性行為者として「噂」⁷⁾を登場させましたが、彼女が登場する箇所はとても短いもので、感嘆させるほどのものにはなっていません。擬似英雄詩、特に『施療院』や『聖歌隊』⁸⁾には、この種の寓意的な人物が何名か登場します。そして、とても見事に描かれており、おそらく、著者はそういった人物を叙事詩に用いるべきだという議論を招くことになるのかもしれませんが。私の考えを問われれば、私が今検討しています詩のためにも、読者もその通りだと考えて頂くと有難いと思います。さらに、もしこのような空虚で実体のない人物がこういった場合に利用されるとしたら、行為にふさわしく想像され用いられている人物としては、私が今語っている人物に勝るものはないのだと付け加えて置かなくてはなりません。

『失樂園』のもう一人の主要な行為者は、人類の大敵です。ホメロスの『オデュッセイア』に登場するユリシースは、航海中の幾多の冒険と微妙な振舞いだけでなく、作中の何箇所かで自らをさまざまな形で隠蔽し、発見させることによって、その寓話を実に心地よい筋書きと込み入った事情を持ち込みその寓話を複雑なものにしているとして、アリストテレスから大いに褒め称えられています⁹⁾。さて、私が今念頭にある賢い人物は、ユリシースよりもずっと長い航海をします。そして、もっと多くの策略手管を駆使し、自らの姿を実にさまざまな形状容姿に変えます。この姿は変幻自在ですので、読者にとっては大きな喜びと驚きとなります。

同様に、私たちはミルトンが非常に巧みに、黄泉の国の会議で喋る人物たちに変化を付けていることに気づきます。それどころか、ミルトンは人間に対する神の慈悲心を、造物主、救い主、慰安者（聖霊）という三つの面から存分に発揮するように描いています。

また、ラファエロという登場人物を無視してはなりません。彼は人間に対する優しさと友情を持っているわけですが、彼の言動には高位者にふさわしい威厳と謙遜が伺えます。実際、ミルトンの描く天使たちは、ホメロスやウェルギリウスの描く神々と同様に多種多様でそれぞれの役割も顕著です。読者は、ウリエル、ガブリエル、ミカエル、ラファエロが各自ふさわしい役割を果たしていることに気づきます。

『イーリアス』や『アイネーイス』には、その作品に特有の美点を添え、卓越した分別を駆使して考えられたことがもうひとつあります¹⁰⁾。つまり、著者は自分たちの描く英雄

6) アディソンはこれらの点について、第357号でさらに論評している。

7) ウェルギリウス『アイネーイス』4.173-97

8) サミュエル・ガース（1661-1714）『施療院』は1699年、ボワロー『聖歌隊』は1674年、1681年にそれぞれ出版された。

9) アリストテレス『詩学』17.5, 24.10

たちを自分にとっても近い関係にある人物を選んだという点です。アキレスはギリシア人ですし、アイネイアスは遠い昔のローマの建国者だったのです。これによって、同国人は（読者として、主として同国人を想定していたわけですので）彼らの物語に特別の注意を払い、冒険談では彼らに共感を寄せました。ローマ人はアイネイアスの逃亡、成功、勝利を喜び、彼に降りかかる敗北、不幸、失望を深く悲しむわけです。ギリシア人にとっては、アキレスがそうです。そのため、英雄が外国人、つまり、無関係な読者の間では、この大きな利点が発揮されないのは明白です。

上述の点では、ミルトンの詩は賞賛に値します。なぜなら、読者は、国籍の如何を問わず、主要な行為者と関係を持たざるを得ないからです。『失樂園』のさらに大きな利点となっている点は、主要な行為者が私たち人間の先祖であるだけでなく、私たち人間の代理人となっていることです。私たちは彼らの行くあらゆることに現に関心を抱きます。なぜなら、彼らの振舞いは私たちの究極の幸福に関わりがあり、私たちが究極の幸福が得られるかどうかは、まさに彼らの振舞いにかかっているからです。

上述の考えの補足として、現代の批評家たちの中に誤って引用する人がいますが、アリストテレスの見事な見解を付け加えたいと思います。「申し分この上ない美徳を備えた人物が不幸に陥ると、恐怖ではなく憐憫を喚起させる。なぜなら、私たちが受難者と同じでない場合には恐怖を覚ええないからだ。」¹⁰⁾だが、この偉大な哲学者が付け加えるように、「美徳と欠陥を併せ持った人物が不幸に陥ると、憐憫と恐怖を喚起させる。なぜなら、受難者と同じ性格を備えた私たちは、同様の不幸が自分たちにも降りかかることを恐れるからだ」

私はここでは、アリストテレスの上述の見解は他の場合にはそうだと思いますが、ミルトンの場合にはあてはまらないとだけ言って置きたいと思います。なぜなら、『失樂園』の場合、不幸に陥る人物は申し分のない美徳を備えた人物なのですが、おそらくそうだと考えられるのではなく、実際に私たちに該当するからです。私たちはこの人物と同じ船に乗り込んでいるのであって、幸福と苦難を共に分かち合わなくてはならないのです。

以上の例やその他ごく僅かな場合において、（アリストテレスはホメロス为例に挙げているのですが）叙事詩に対するアリストテレスの規則は、アリストテレス以降に作られた英雄詩に正確にそぐわないところがあります。公平に判断しますと、彼の死後数百年経って書かれた『アイネーイス』を考察できていれば、アリストテレスの規則はさらに申し分のないものになっていたのは間違いのないところです。

つぎはミルトンのほかの点について検討する予定です。そこでは、すでに書いたことに加えて、ミルトン論だけでなくアリストテレス論にまで進めていくことができればいいと願っています。

10) アリストテレス『詩学』13.2-3

第274号 1712年1月14日（月曜日）

【スタイル】

卑劣な姦夫どもに、彼らの願い同様の酷い処罰を
願っているあなた方は満足するに違いない。（ホラティウス）¹⁾

（私が初めて密通の現状について考察してから）私は身に覚えのある女性に代わって、数回に渡り、ずる賢い男性の術策と言動に加えて、生身の人間の衝動について考察してきました。そして、ある種軽蔑の気持ちを込めて、若いときに陽気で礼儀正しいと考えていることの大半は好色に耽る習癖にほかならないのだと考えています。男性読者の振舞いに男らしい謙虚さと女性読者の顔に恥じらいの表情を取り戻すほど生き生きとした状態をもたらすことは、相当骨の折れる仕事となっています。何事であれ、議論に入るには、主題に真の光を当てる前に、やって置かなくてはならないことがあります。まず、供給される側と絶えず欲望の権化に新たな犠牲者を送り込んでいる側の慎みのない遊里の客と名うての鬼婆について考察する必要があります。もしあなたが幸いにもまだそんな場所をご存じでないとすれば、美女と無知な人の住まいでの大混乱は、その温床を荒廃させるだけで、その場を心から楽しまない連中によって引き起こされていることが分かるはずです。現状の悪徳と美德を観察しますと、困り者となるのは、自分たちが追い求めていることが衝動に駆られて行っているのではないと考えている人たちなのです。仕事で時々愚か者がならず者のふりをするのを見かけますように、快楽においても、遊里の客のふりをする老人がいます。こういった老人が今話題にしています非道な行為を育む基盤となり資金となっているのです。金持ちの老人はしばしば、町のあちこちから新商品の説明がついたへたな手紙を受け取り、気に入ったら約束をすることになるのです。その結果、顔合わせが画策され、無知な人は時あるごとに恥を捨て欲望を募らせる淫らな行為へと走らされるわけです。鬼婆はこういった下準備をして、徐々に彼女たちの警戒心を解き、ついには、彼女たちに降りかかるあらゆる心配を払拭させ、女性たちは女性たちで、より若い男性の獲得へと向かって行くのです。若者を新しい女性に引き合わせようとする鬼婆の追伸には、ごく当たり前のように「保証しますが、この娘は年配の誰某氏以外に会ったことはありません」と記します。老人は娘が飾り気のないまま連れて来られると喜び、気前よくドレスを買い与えます。これが美と貧困を娼婦に引きずり込むごく普通のやり方です。だが、心優しい主人や巧みなポン引きや別の商いをしており、罪深い仕事をしていないその他の人々といった特殊なケースについては、別に考察する必要があります。このように放埒な人々に対しては厳しいのですが、その他の人々の場合は、事情に応じて情状酌量の余地があります。罵倒しても役には立ちません。必要以上に悪口を言うと、非難する人の信用がなくなるだけでなく、暗に非難される側に弁解の余地を与えてしまいます。それゆえ、事情に応じて、罪人の呼称を変えたいと思います。単に自分自身に過ちを犯し、社会にとって醜聞ではな

1) ホラティウス『諷刺』1.2.37-38

く、謹厳な人々に敬意を表し、恥辱に思うほどの善良さを備えている人々は、最悪の女性だといって一括りにして片付けてはなりません。彼女たちに降りかかった事情、無分別でひどい両親のもとでの不安で複雑な状態、有無を言わさぬ貧困、最初はしっかり備わっていた感情および不幸な女性に女性の特性であるしとやかさ²⁾を行き渡らせていたその他感情の改ざんを考慮する必要があります。そうしませんが、犯罪に対しては、罪悪感を減少させたり高めたりするあらゆる事情を考慮する公明正大な観察者ではなく、すべての犯罪を同一視する衛学的な禁欲主義者³⁾のような振舞いをするようになってしまいます。この主題を追求しますと、女性は今後幼少時から将来の状態を見据えた扱いを受けることとなるものと期待しています。そして、異常な気難しさつまり自尊心のために扱いにくくなった、家庭での馴れ馴れしさつまりずうずうしさのために従順になったりし過ぎないことを望みます。この主題については、以上のことを述べまして、本日の紙面の締めくくりとして、つぎの誠実な手紙を紹介したいと思います。そして、この主題についてさらに思索をしたいとお考えの方は、自分の行為を大目に見てもらうために、事例に対するご意見をお寄せ頂きたいと思います。

観察者殿

1711年1月5日

昨日の紙面の主題はとても重要であり、これを徹底的に論じることは数多くの無垢な若い女性を保護するためにとっても有益なことです。貴殿にこの人倫に外れたやり手婆という女性の悪質な手練手管をあばく手掛かりを寄せるのは各人の義務だと、私は考えます。そこで、ある高貴な方宛てのこの町の有名なやり手婆の手紙の写しを一言一句違えずに同封します。私の意図は当人を暴露することにあるので、双方の名前は内密にさせていただきます。

草々

閣下

私は閣下の名声を高く評価していますし、ほかのどなたよりも閣下を尊敬していたしております。そこで、閣下にお喜びになって頂けるものと思っていますことについてお知らせさせて頂く次第です。私のもとに2週間前に上京しました姪がいます。この娘は、両親を最近亡くしまして、婦人帽店をやっているほどの好条件の食事と部屋つきの私を頼って上京して来たわけでございます。この娘の父親は5年間で80ポンド残してくれました。彼女は娘盛りでして、まだ16歳になっていません。浅黒い肌をしたとても可愛い淑女でして、閣下がお気に入りの小柄な女性です。体つきも見事なでして、顔色も赤と白で綺麗なでございます。閣下はきっと気に入られるに違いありません。彼女は、今は大丈夫なのでございますが、私が彼女を養えなくなりますと、一ヵ月後くらいには身請けされたいと考

2) 第6号参照。アイザック・ピッカーstaffは、「女性にとって、しとやかさほど優美で気品のあるものはない。これが美しさに魅力と新たな穏やかさを添えるのだ」と述べた(『タトラー』第84号)。

3) アディソンは、第243号で、禁欲主義を「美德の衛学」と呼んでいる。

えているのでございます。この娘の父親と一緒に亡くなったのは一人だけでした。そこで極貧の子供たちが四人残っているのです。閣下が私の姪とお会いしていただけるようでしたら、一行か二行で結構でございますから、お返事をお待ちします。私が、閣下が楽しんで頂くのにふさわしい家を出ましてから、その機会を無くしていますものですから。姪には私と一緒に、とても立派な友人のある紳士に会いに行くようにと告げたのでございます。彼女が町のやり方に無知だということでしたら、どうか私の手紙は無視して頂いて結構でございます。閣下、どうかお一人で会いに来て頂けますようお願いいたします。名誉にかけて誓って申し上げますが、私がこの姪のことを口にしましたのは閣下が初めてのお方なのでございます。

敬具

この手紙をお読みになれましたら、どうか焼却して頂きたいと存じます。

ティー

第275号 1712年1月15日（火曜日）

【アディソン】

ヘレボルス根を三服飲んでも治癒できない頭。(ホラティウス)¹⁾

昨日、私は学者たちの集いに参加しました。そのうちの一人は、最近、人体の解剖について好奇心をそそる多くの所見を発表したのです。また、別人は同じテーマについて、顕微鏡で発見した不思議な事実を私たちに教えてくれました。これは実にさまざまな考えを思いつかせ、その日の話題に花を添えたのです。

そこで交わされたさまざまな意見は、私の想像力にいろいろ目新しい考えを提供しましたので、私は一晩中あれこれ考えを巡らし、実に奇妙な夢を見ることになったのです。

どうやら、私は伊達男の頭とあだっぼい女の心臓の解剖の場に招かれたようでした。両者が私たちの前のテーブルの上に並んでいました。架空の手術者が伊達男の頭をとても精密に切り開きました。ちらっとうわべだけ見ますと、それは別人の頭のように見えたが、顕微鏡で見ると、実に奇妙なことが分かったのです。つまり、脳だと思っていたものが、実際には不思議な物質の塊が脳の形に絡み合っており、頭蓋骨にあるいくつかの空洞に巧妙に詰め込まれているに過ぎなかったのです。と言いますのは、ホメロスが語るように、神々の血は実際の血ではなく、それに似せたものなのです²⁾。そういうわけですから、伊達男の脳は実際の脳ではなく、それに似せたものだったわけです。

現代の批評家の多くが魂が宿る場所と考える「松果体」³⁾は、非常に強烈なエキスと橙花水の香りがし、いわば好色な物質で取り囲まれ、裸眼では見えない多くの小さな面にな

1) ホラティウス『詩の技法』300 ヘレボルス根は狂気を治すと考えられた。

2) ホメロス『イーリアス』5.339-43

3) デカルト(1596-1650)は、魂は松果体に宿ると考えた。

っていました。そのため、魂は、もしあったとしても、絶えず女性のことに専念していたに違いありません。

リボンとレースと刺繍がいっぱい詰まった「前頭部」の大きな「空洞」は、とても奇妙な網状組織となっていることが分かりました。これらもまた裸眼では見えませんでした。もうひとつの空洞には、目に見えないほどの小さな恋文やダンスのための点譜楽曲やその他同種の戯言が詰まっていました。また別の空洞には、一種の粉おしろいが詰まっており、誰もがくしゃみをしました。その香りから、これはスペイン人に間違いがないと思いました。その他いくつかの細胞には、同種の必需品が蓄えられていました。これらについては、詳細な目録をお伝えしましても、読者は退屈なさると思います。

頭の両側に大きな空洞がありましたが、これは無視するわけにはいきません。右側の空洞には、作り話、お世辞、嘘、誓い、約束、そして断言が詰まっており、左側の空洞には、罵倒とのおろいが詰まっていました。それぞれの細胞から管が出ており、舌の付け根まで伸びており、そこで合流して一本の管となり、舌尖へと向かっていました。数本の細い道つまり脈官が耳から脳へと繋がっており、数本の道を辿るように特別の注意を払っていました。そのうちの一本はソネットと楽器の束の方に向かって伸びていました。その他の道の先端は、噂つまり空言が詰まった袋状組織でした。太い脈官は頭蓋骨の大きな空洞に繋がっており、そこから別の脈官を通して舌へと向かっていました。この大きな空洞には、いわば海綿状の物質が詰まっており、この物質を、フランスの解剖学者は「たわいもない言葉」⁴⁾と呼び、イギリスの解剖学者は「ナンセンス」と呼びます。

額の皮膚はとても硬く分厚く、非常に驚いたことに、そこには顕微鏡でも裸眼でも発見できるような血管は一本も見当たりませんでした。そこで、私たちは当人は存命中恥じらいという機能は完全に奪われていたに違いないとの結論に達しました。

「小孔質の穴」はふさがれてしまっており、何箇所かはかぎ葉のいせいで傷ついていました。その小さな筋肉に特別な注意を払わざるを得ませんでした。この筋肉は、解剖ではめったに見分けがつかないのですが、持ち主が気に入らないものを見たり、理解できないことを耳にしたりしたときに、侮りを表現するときに、鼻を上向きにつんとそらせます。博学な読者のみなさんにはお伝えする必要はありませんが、この筋肉は、ラテンの詩人たちがさかんに用いる「鼻をつんとそらせる」つまり、軽蔑の表情とか「サイの役割を演じる」つまり、面の皮が厚いといった動きを司るのです⁵⁾。

眼では、「なまめかしい筋肉」英語に翻訳すると「じろじろ見る目の筋肉」が使用のため極度にボロボロになっていたこと以外には、それほど注目すべきものはありませんでした。その一方で、眼を天国に向ける挙筋⁶⁾はまったく使用されなかったようでした。

私はこの解剖で体験した目新しい発見だけに言及しており、普通の頭で遭遇することは

4) OED は「たわいもない言葉」(galimatias) の初出を1653年としている。

5) マルティアリス『警句』1.3.5-6

6) トマス・ギブソン『人体解剖概要』(1703年) 参照。「眼には筋肉が6本あり、4本はまっすぐで、2本は斜めに走っている。4本は眼を上下、左右に、2本は斜めに動かす……」

無視しています。頭蓋骨や顔、頭の全体的な外形などに関しては、ほかの人々の頭と何の差異も見つかりませんでした。この頭の持ち主は35年間あまり男として通用したとのことでした。その間、彼はほかの人たちと同じように、飲食し、身繕いをし、元気に喋り、さかんに笑い、舞踏会とか集いの場ではまずまずの振舞いをしていたのです。仲間の一人によると、彼はあるご婦人方からは才人と見られていたとのことでした。彼は若い盛りに掘削機の一撃を受けて命を落としたのです。彼は妻に優しくしていましたので、ある著名な市民はその死に驚嘆したものです。

小部屋や調度品がいろいろついたこの頭を徹底的に調べた後、脳をそのまま元の場所に返し、準備をするために、頭に大きな深紅の布をかけ、解剖のための容器に保管しました。手術者によると、準備はもうひとつの脳ほど厄介ではないとのことでした。なぜなら、見たところ、脳に走っている小さな管状器官はすでに水銀のようなものが詰まっているからとのことでした。どうやら、手術者はこの物質は混ざりもののない本物の水銀⁷⁾と見たようです。

手術者はつぎにあだっばい女の心臓に着手しました。彼はこの心臓もとても器用に切り開きました。この解剖でもいろいろなことが明らかになりましたが、読者の皆さんにあれこれ一度に押し付けたくありませんので、これについては後日の思索⁸⁾のためにとっておきたいと思います。

エル

7) 水銀は性病治療に広く使用された。

8) 第281号参照。